

代表取締役社長 兵頭義雄  
入社式あいさつ（要旨）

皆さん入社おめでとうございます。

本日は皆さんの入社にあたり、二つのことをお話いたします。

まず、一つ目ですが、今日から皆さんは、社会人として歩き始めるわけですが、当社の社員として一人前の立派な企業人になっていただく前に、立派な社会人になることを心がけていただきたい、ということでもあります。

立派な社会人とは何かと申しますと、これは、単に法律や社会のルールを守るということだけではなく、社会に貢献し、社会から尊敬されるという行動基準を、しっかりと自分で身につけている人を言います。

戦後わが国は、世界が驚くほどの奇跡的な経済発展を遂げ、その結果、物質的には世界でも有数の豊かな社会を築いて来たわけであります。経済発展というものは、文化や人間関係に多大な影響を与えますので、それを避けては通れないのですが、わが国の場合、その変化があまりに急激で大きかったために、この間に失ってはならない大きなものをいくつか置き去りにしてきました。

その一つは、非常に長い年月をかけて培ってきました、高潔な民族の心だと私は考えています。昔、わが国を訪れた外国の方々が、この国は決して豊かではないけれども、高潔な心を持った民族であるとの賛辞を惜しまなかったと言われています。ところが、今の日本はどうでしょうか。新聞を開きますと、毎日のように政治家、あるいは官僚、裁判官、弁護士、警察官、果ては教職者にいたるまで、本来、指導的立場にいる人たちの不祥事の報道があとを絶ちません。

皆さんが生まれた頃には、すでにこうした時代になっていましたので、その変化に気づかないかもしれません。しかしながら、ひと昔前までは、これらの職に就いている人たちは、自らの職に大変な誇りを持ち、社会からも尊敬され、また自らも命をかけて国と国民のために奉仕をするという使命感と、高い倫理感の持ち主であったわけです。

こうしたわが国の状況は、必ずしも特別な人が特殊なことを起こしているのではなく、国民のモラルが低下してしまったことの反映であると思います。現に、我々をとりまく経済界におきましても、ここ十数年、企業のモラルハザードによる不祥事は大変な数にのぼります。身近なところでは、食品業界の不祥事がここ数年、延々と続いております。人の健康と命を預かる企業が、その使命を忘れて金儲けに走ってしまっているという、嘆かわしい話であります。

わが社の経営は、こうした不祥事とはまったく無縁でありますので、安心していただいて結構ですが、ひとたび不祥事などが起きてしまえば、企業の信頼は瞬く間に地に落ちてしまいます。社員の皆さん一人ひとりが、不正は絶対に許さないという良心と勇気を持ち続けて、会社生活を送ることが何よりも重要なのであります。

二つ目は、これから皆さんが、会社という狭い組織の中で、将来成長するために留意していただきたいことです。それはひと言でいいますと、常に当事者意識をもって物事を考え、行動していただきたいということでもあります。

研修を終えて職場に配属されますと、上司からそれぞれに仕事を下命されます。しかし、それを単に受動的に受け止めるのではなく、その仕事に改善の余地は無いのかとか、仕事を通じて職場の仲間、あるいは会社に対して、自分はどのようにして貢献するのか、ということから主体的な観点から考え、自ら目標を設定する習慣を身につけていただきたい。そして、その目標を必ず達成するんだという、情熱と強い意志をもって行動していただきたい。

初めのうちは経験不足ですから、失敗も多いでしょうし、挫折することもあるかもしれません。しかし、企業活動というものは、今までの皆さんの生活の場と違って、行動して、何かを成し遂げて、初めて成り立つものであります。考えあぐねて、何も行動しなければ、何の役にも立たないのです。特に若い皆さんは、現状に満足することなく変化に果敢に挑戦することが特権でもあります。私は、若い時の行動範囲の広さ、あるいは経験の多さというものが、将来の成長の糧となるものと確信しています。エネルギーの溢れるこの時期に「失敗を恐れずに、とにかく動け」ということを自らの胸に言い聞かせ、あまり悩まないように、悩むより先に行動に移すことを心がけていただきたいと思います。

さて、企業を取り巻く足元の環境は、非常に厳しくなっております。1、2年で回復すると言っている人もいますが、私は5年はかかると見ています。

こうした中、わが社は、2020年を達成年とする新グランドデザインを策定しました。いまから11年先の目標となりますが、私はもっと早く達成する必要があると思っています。そのために、この4月から組織も大幅に見直し、その新しい組織で、今日から歩み始めるわけですので、皆さんはその一期生となります。

これから皆さんには、それぞれ色々な分野で活躍していただくわけですが、どの分野も競争の舞台は世界になります。絶えず大きな変化が起き、その変化に適応して新規事業を立ち上げるといった、激しい競争を繰返さなくてはなりません。

皆さんには、一日も早くわが社の戦力になっていただき、わが社の活動に参画していただくなくてはなりません。我々も、皆さんを早く戦力化するために最大限の支援を惜しみませんので、皆さんもぜひその期待に応えて、頑張ってくださいと思います。

あらためまして、皆さんが当社へ入られたことを、心から歓迎いたします。

以 上